

【目的】

本プロジェクトは、龍谷大学の環境配慮の取り組みを明らかにし、持続可能な大学づくりを目指すために学生主体で環境報告書を作成するものである。他大学の事例を参考に、電気・ガス・水道などエネルギー使用状況を分析し、環境保全の進捗や課題を浮き彫りにすることを目的とした。特に、瀬田キャンパスに焦点を当て、建物ごとのエネルギー利用状況などを分析した。本報告書は、大学構成員のSDGs意識向上やエコキャンパス化の促進に活用されることを目指す。

【計画】

6月中旬から活動を開始。他大学の環境報告書を調査し、内容構成を確定。7月には環境データ収集の計画を立て、電気使用量やガス使用量、水道使用量を中心に分析を開始した。8月には、環境生態工学課程の横田先生からデータ提供を受けるとともに、淡海環境保全財団への取材を実施。8月下旬には兵庫県洲本市の龍谷ソーラーパークを訪問し、現地の状況を調査した。最終的には、これらの成果を環境報告書としてまとめ、学祭のポスターセッションで公表した。

【調査方法】

学内外の環境情報を収集し、データを分析した。具体的には、大学HPやシラバス、教員からの情報提供を受け、電気使用量、ガス使用量、水道使用量を建物ごとに分析。加えて、淡海環境保全財団への取材や龍谷ソーラーパークの現地調査を実施し、再生可能エネルギーの利用やその環境影響について考察を深めた。

【活動経過】

6月中旬から他大学の環境報告書を分析し、作成内容の方向性を決定。7月からデータ収集を本格化し、得られた情報を基に報告書の目次や構成を具体化した。8月から10月にかけて、データ分析と文章作成を進める一方で、現地調査や取材を行い、活動内容を具体化。報告書の完成後、学祭で発表する形で広く共有した。

【成果・結果】

今回のプロジェクトでは、龍谷大学瀬田キャンパスを中心に環境負荷データを収集・分析し、それらを基に「学生がつくる環境報告書 2024」を完成させた（図1）。本報告書では、大学の電力を100%再生可能エネルギーで賄う龍谷ソーラーパークの状況や、キャンパスごとのエネルギー使用特性を明らかにした。また、季節変動や建物ごとの使用量を考慮し、エネルギー削減の具体的な提案を提示した。さらに、環境イベントや教育プログラムの現状を整理し、学内のエコ活動を強化するための課題を浮き彫りにした。これらの成果や提案を通じて、大学内での環境意識の向上やエコキャンパス化の推進に寄与することが期待される。